

石油や天然ガス、原子力にシフトしていった。冷戦期と重なるこの時期、脱石炭に西側諸国が一步先んじ中、東側諸国はかなり後まで石炭に頼ってきた。その背景には、主要な石油・天然ガス産地が西側諸国の影響下にあったこと、エネルギー安全保障の面から域内自給にこだわった（域内で石炭は大量に産出した）こと、時間の経過とともに東側諸国の経済水準と技術進歩が衰退していったこと、強権的な国家運営と情報統制で国営企業による環境汚染への対応や市民の声の反映が抑制されたことなどがある。

このことが、東欧各地に一時代前の炭鉱とその関連施設を、更新されないまま存続させることとなった。そして冷戦終了後にそれらが新たな地域資源として浮かび上がってきたのである。

近年、シロンスクではこれらを産業観光、教育資源として活用する動きが活発化している。炭坑を含め、シロンスクに残る産業遺産をリストアップし、ドイツのルール工業地帯で既に展開されている「産業遺産回廊」のような「産業記念碑ルート (Szlaku Zabytków Techniki)」が作られている。シブ・ヴィルソンも登録されている。

各地でパンフレットや地図が配布されているほか、ウェブサイト (<http://www.zabytkotechniki.pl/>) も開設され、YouTubeには「INDUSTRIADA 2015」のプロモーション・ビデオ (<https://www.youtube.com/watch?t=1&v=L8ujrlqJ5Wc:2015/06/24> に公開) もアップされている。

案内図には36箇所が載っているが、そこには廃止されたものだけではなく現役のものも含む炭坑や鉱山（銀山が有名）、工場（冶金や水・エネルギー関連、食品加工など）、醸造所、印刷所、博物館、労働者住宅、鉄道施設、蒸気機関車などが網羅されている。

ヨーロッパ各地の同様の取り組みをカバーしている「欧州産業遺産回廊 (ERIN:European Route of Industrial Heritage)」 (<http://www.erih.net/>) では、同ルートは中欧で唯一の事例となっている。

今回、シブ・ヴィルソンのすぐ近くの旧炭坑住宅地区「ニキショヴィエツ (Nikiszowiec)」 (<http://www.nikiszowiec.pl/>) も併せて訪問した²¹⁾。「産業記念碑ルート」にも記載のある重要な場所で、美しくデザインされた労働者住宅や炭坑関連施設、博物館や観光案内所がある。あるがままの姿を生かした野外博物館、いわゆる「エコムゼ」の一種であるが、本稿の単独の産業遺産施設の事例とは別に、また稿を改めて取り上げることとする。

近年になって、産業観光や生涯教育、芸術振興を目指した様々な取り組みが進展している様子は窺われるが、まだ日本の旅行ガイドブックの類には、カトヴィツェとその周辺への記述はほとんどない。今後の進展を見ながら継続的に調査・研究対象としていきたい。

なお、本研究の遂行にあたり、平成27年度静岡文化芸術大学学長特別研究費の助成を受けたことを付記する。

(注記)

1) Konstancinの発音は「コンスタンチン」であるが、なぜかポーランド

政府観光局のウェブサイトの翻訳では「コンスタンティン」となっている。

- 2) 根本敏行「チェコ・ポーランドの産業遺産・ミュージアムとツーリズム」静岡文化芸術大学研究紀要 Vol.14 2013
- 3) 静岡文化芸術大学産業遺産研究会「旧東欧地域における産業遺産の保全と利活用に関する研究 報告書」2014年3月31日
- 4) 4年セイム (Sejm Czteroletni)
セイム (Sejm) はポーランドの下院。王国時代の1493年、ヤン1世オルフラフト王が召集した、国王と元老院 (上院) あるいはセナト (Senat) 及び小議会 (下院) からなる全国議会 (セイム) を起源としている。「4年セイム」あるいは「大セイム」は、ワルシャワで1788年から1792年まで続いた政治体制で、この4年間ポニャトフスキは多くの改革派の人士を愛国者党に集め、集中的に権威の強化と抜本的な改革を実行した。中でも重要なのは1791年の「5月3日憲法」⁵⁾ の起草である。
- 5) 5月3日憲法 (Konstytucja Trzeciego Maja)
近代的な成文国民憲法として、アメリカに次いで世界で2番目、ヨーロッパで最初のもの。11条からなり、アメリカ憲法同様に啓蒙思想の影響が見られる。第5条には「国家の清廉、市民の権利、社会の秩序は、つねに均等でなければならない」とあり、国民主権の原則 (貴族と都市市民に適用)、立法 (両院制セイム)・行政 (国王の評議会)・司法の三権分立の原則を定めている。また、農民を「国法と政府の元に保護される」と明記し、農奴制を廃止し、農民に参政権を与えるきっかけとなった。
- 6) フランシス水車
イギリス生まれのアメリカ人技術者、ジェームズ・B・フランシスによって開発された水車的一种。水流を閉じたケーシング内に導き、ガイドベーンを通った流水が、渦巻き型ランナの外周部に半径方向から流入し軸方向に流出する水車。構造が簡単で保守が容易である。流量変化による効率の低下が大きい。
- 7) コンスタンス社のウェブサイト (<http://www.konstans-papier.com.pl/>) 2015年9月30日検索
- 8) 地元ニュースサイト (<http://www.konstancin24.eu/news.php?extend.327.2>) 2015年9月30日検索
- 9) ポズナン
ポズナン (Poznań) はポズナニとも表記される。「ń」の発音は軟化したnなので、日本語では「ン」と「ニ」の間に聞こえる。本稿ではポーランド政府観光局の表記に準じてポズナンを用いる。
- 10) 聖ヴォイチェフ (św. Wojciecha) : 英語St. Adalbert
ブラハ司教。バルト海沿岸の古ブルーセン人に布教している最中、殉教した。チェコ語ではヴォイティエフ、ポーランド語ではヴォイチェフ。後にカトリック教会で聖人とされ、ボヘミア、ポーランド、ハンガリー、プロイセンの守護聖人とされた。
- 11) ルントボーゲンシュティール (Rundbogenstil)
日本語に訳すと「丸アーチ・スタイル」。19世紀の建築の偽古典主義 (ヒストリック・リバイバル) 様式の一つで、ロマネスク・リバイバルの一形態。当時ドイツ語圏内やドイツ人建築家の間で流行。アーケードに連続アーチをデザインする形態などが代表的。
- 12) クリスタウ (Kryształ)
クリスタル。淡い黄色で透明なピルスナー・タイプのラガー (低温熟成) ビール。ご当地風。
- 13) スペチアウ (Specjal)
スペシャル (特別醸造)。ミュンヘン風黒ビール (ミュンヘナー・ドゥンケル)。
- 14) ポーター (Porter)
イギリスで大流行した量産タイプのビール。工場で大量生産できるようになってから登場した安いビール。上面発酵酵母の褐色ビールで、本来はピルスナータイプのラガーのような下面発酵ビールではない。しかし、同じ工場で作られたとしたら、色や風味がポーター風のラガーの可能性もあるが、詳細は不明。
- 15) 掩体壕 (えんたいごう)
英語ではバンカー (Bunker)。装備や物資、人員などを敵の攻撃から守るための施設である。掩体、掩蔽壕 (えんぺいごう)、掩壕とも言う。コンクリート製のかまぼこ型のものが多い。
- 16) 発酵棟
スウォドヴニア (Słodownia)。英語ではモルトハウス (malthouse)。大麦を発酵させて麦芽にする工程の建物。
- 17) Studio ADS
ポズナンを拠点として建築家ピーター・Z. BarelkowskiとはPrzemyslaw Borkowiczによって1989年に設立。 (<http://>